

永田町新潮流 平沢勝栄



二階幹事長は「他党にいた議員の入党希望には謙虚に、ありがたいと思わなければ」と言う。入党の結果、自民党内には緊張感や競争心が生まれることから、間違いないメリットはあるといえよう。

私は現在、国会議員46人を擁する自民党の派閥、志帥会(二階派)に所属している。志帥会の会長は二階俊博幹事長で、野党出身議員の自党への引き込みに寛容である。この引き込みについてはさまざまな意見がある。野党にも優秀な人材は数多くいる。その中には、野党では活躍の舞台が限られることから自民党入りを希望するということも多い。

研修会で親睦を深め研鑽に励む↓国民が納得いく政治へ

派閥政治肯定する二階氏の思い

初日の講師は、サッポロビールの高島英也社長。IHIの斎藤保会長、毎日新聞の山田孝男特別編集委員、日本経済新聞の芹川洋一論説フェロ、尾崎正直高知県知事だった。



二階幹事長は「他党にいた議員の入党希望には謙虚に、ありがたいと思わなければ」と言う。入党の結果、自民党内には緊張感や競争心が生まれることから、間違いないメリットはあるといえよう。

例えは、高島氏には、社を挙げて取り組んでいる復興支援などの「社会貢献」策について話して

二階幹事長は「一人一人の国会議員の力は大きいことではないが、仲間がそろって大きな力になる。派閥政治のどろどろが「悪いのか」と語っていた

加することの3つだ。こうした研修会などを通じて、われわれは相互の親睦を深め、さらなる研鑽(けんさん)に励んでいる。

とここで、この志帥会の研修会には他派と違うところがある。それは、①テーマを掲げ、毎年異なる場所で行っていること②地方議員も参加すること③ちなみに、福島県議会の自民党議員の多くは志帥会支援者④各議員の後援会メンバーも参

私たちが国会議員は国民の期待に応えるべく、さらに努力をしていかなければと思っている。(自民党衆院議員)